

公表

(保育所等訪問支援) 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターにじいろ		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 26日		2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2025年 11月 26日		2025年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2025年 11月 27日		2025年 12月 15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問支援員として複数の専門職(作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士)を配置しているため、ニーズに応じた支援が提供できる。	・こどもの特性、保護者の意向、訪問先の学校園の環境等に応じた専門性のある者が支援できるよう、個別支援計画をもとに支援ニーズに応じて訪問担当者を決定している。	
2	・市直営の事業所であるため、保育・教育関係機関と連携しやすい。	・毎年、年度当初に保育所等訪問支援についての説明等を学校園に行っており、事前の打合せ時から、スムーズに訪問支援を行うことができている。	・今後も特別支援教育コーディネーター等、こどもをとりまく関係機関との連携を図る。
3	・事業所が多機能型であるため、児童発達支援及び放課後等デイサービスを利用している児童については、それぞれの通所サービスと連携し、よりよい支援を行うことができる。		

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問担当者が行う他事業の業務との兼ね合いにより、学校園が希望する日程での訪問支援が困難になる場合がある。	・訪問担当者が複数の事業に従事しているため、日程調整等の難しさが生じるのはやむを得ない。	・こども、保護者及び学校園のニーズを踏まえ、訪問支援の必要性や頻度、回数について保護者や学校園と丁寧に相談し、効果的な支援の実施に向けて検討する。
2			
3			